



紀宝町

議会だより

平成23年9月1日発行（第20号）



節電で
緑のカーテン
エコの夏♪

議 会 日 誌

平成23年 4月～6月

- | | | |
|-------|-------------------------|---------------------------------|
| 4月14日 | 総務産業常任委員会 | 庁、紀勢国道事務所、中部地方整備局、国土交通省）〔26日まで〕 |
| 19日 | 議会中継調査特別委員会現地視察（鳥羽市） | |
| 22日 | 南牟婁郡交通安全対策協議会委員会（御浜町） | 30日 紀南環境衛生施設事務組合議会臨時会（新宮市） |
| 5月6日 | 紀宝町交通安全対策協議会 | 31日 熊野川流域対策連合会理事会・総会（新宮市） |
| 9日 | 三重県町村議会議長会理事会（津市） | 熊野川河口に橋を架ける会理事会・総会（新宮市） |
| 11日 | 国道169号線改良促進連絡協議会総会（熊野市） | 6月1日 全員協議会 |
| | 熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会総会（熊野市） | 6日 環境保全対策特別委員会 |
| 12日 | 議会運営委員会 | 7日 熊野川河口大橋建設促進議員連盟理事会・総会（新宮市） |
| | 議会中継調査特別委員会 | 議会運営委員会 |
| 16日 | 紀宝町水田農業推進協議会 | 8日 紀宝バイパス対策特別委員会 |
| 17日 | 自治体議員研修会〔第1回〕（津市） | 14日 第2回定例会・第1日目 |
| 23日 | 紀宝地区交通安全協会代議員総会（紀宝町） | 15日 第2回定例会・第2日目、議会運営委員会 |
| 24日 | 教育民生常任委員会 | 27日 紀南特別養護老人ホーム組合 亀楽苑竣工式 |
| 25日 | 紀宝バイパス建設促進等要望・提言活動（三重県） | |

6月定例会 一般質問

(要約)

平成23年第2回紀宝町議会定例会は6月14日に開会しました。

第1日目は、初めに、議長報告と各委員会委員長報告があり、次いで、町長から、第1回定例会以降の町行政各般にわたる報告がありました。その後、一般質問が行われ、第20日目の15日にわたり、7人の議員が質問に立ち、諸課題について、当局の取り組みと考え方を質しました。引き続き、議案審議に入り、専決処分の案件1件を承認し、条例の一部改正案件1件、辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更案件1件、平成23度一般会計補正予算案件、並びに水道事業特別会計補正予算案件をそれぞれ可決。続いて、人権擁護委員の推薦についての答申書を提出した後、1件の請願を採択し、この請願に基づく意見書1件を可決し、閉会しました。

議員

防災無線個別受信機を各家庭以外にも導入をできないか。今回、紀宝町では各家庭へ防災無線及びラジオ機能の付いた無線を配布していくという事です。東日本大震災により情報伝達などの遅れで逃げ遅れ、津波に巻き込まれて亡くなられた方々も多数いるとお聞きをしております。買い物先や企業など各家庭以外の場所への設置はどのように考えているのか。

榎本 健治 議員



- ・ 防災対策について
- ・ 学生奨学金制度について
- ・ 子育て支援について
- ・ 子ども議会について

防災対策

防災担当理事

現在、今までに個別受信機を設置されていない世帯、全世帯に防災ラジオを無償貸与により配布する準備を進めて

います。一般世帯以外への配布という事で、今回の防災ラジオを導入するにあたり、事務局としましても、無償ではなく、一部負担をいただく中で、事業所へも希望があれば配布を進めてまいりたい。

議員

中曾川排水路のコレゲートパイプは、津波発生時、駅裏地区約350世帯の方々が住まれているなかで、コレゲートパイプを通って津波が押し寄せ、危険であるということが危惧されております。中曾川のコレゲートパイプの工事の進捗は計画的に進んでいるのか。

産業建設課長

中曾川排水路のコレゲートパイプについては、施工年数が30年以上経過していることから、老朽化による耐久性が懸念されております。現在、三重県において、法寿坊・中曾地区の浸水対策も踏まえたコレゲートパイプの補修補強工事が発注されております。三重県の全体計画としては、鶴殿港内のマイターゲートから国道42号線までの延長約180㍍の区間を補修補強する計画となっており、今回発注されている箇所については、マイターゲートから上流側へ延長30㍍の補修補強工事と伺っております。現在の状況については、設計当初に比べ

て、下流側付近でコレゲートパイプが変状していることがわかったため、その付近の詳細な調査を進めているとのことです。

議員

中が変状していたということで、ボックスカルバート式で下流側を広くして流れるようにできないのか。

産業建設課長

町としましても、議員が先ほどご指摘をいただきました、鶴殿港内付近の下流側に、現在も大型トラック等が頻繁に通行していることなどから、コンクリート構造物での施工に変更していただけるようお願いしているところですので。6月初旬にも県へ要望に行ってきましたが、また、7月には3市町で構成している紀南土木推進協議会の中からも、引き続き要望してまいりたい。

議員

地震が発生した場合、津波が押し寄せてくるわけですが、津波対策として遮断ゲートの設置、完全に閉鎖できるようなシステムの導入を強く求めますが。

産業建設課長

津波被害の対策としては、マイターゲートではなくて遮断ゲートの設置ということも必要性があると認識しておりますが、中曽川排水路を遮断してしまうことにより、法寿坊・中曽地区の大雨による浸水対策についても、十分な検討・対策が必要であるという一面も持っております。現在のマイターゲートについては、港湾管理者である三重県とも協議・検討を進めておりますが、適切に維持管理していただけると伺っております。

議員

避難路整備とあわせて、バックアップ付き防犯灯を設置できないか。

防災担当理事

バックアップ機能付き停電対応照明については、現在13カ所に設置しております。避難路全線の防犯灯や既存の防犯灯のすべてをバックアップ機能付きに換えるということとは難しいと思いますが、夜間また災害時に停電をした場合、避難路の入り口や避難所の場所が分かるような目印的な役割も果たせる場所については、取り換えをしていきたいと考えております。

議員

太陽光発電について。今回の大震災を受けて、自然エネルギー、太陽光発電、風力発電など自然エネルギーの活用がいわれているなかで、三重県政策部が発表された補正予算で、新エネルギーの普及促進事業費で、新エネルギーの導入促進と防災力向上のために、市町が実施する避難施設への太陽光、蓄電システム導入に対して支援すると共に、各家庭での小型風力発電及びバイオマス熱利用等の新エネルギー導入に対して支援をしていくと書かれております。太陽光発電は、町単独でやっていく場合は特に公共施設で初期投資が大変であり、こういった県の補助も絡めて太陽光発電を導入していくべきではないか。

総務担当理事

東日本大震災の発生に伴いまして、三重県政策部では、本年度6月補正予算において、「東日本大震災をふまえた防災・エネルギー対策」の一環として、県内市町が太陽光発電3キロワット、またはバッテリー15キロワットまでを整備した場合に、補助対象額4

00万円、補助率2分の1、1市町200万円を限度とした総額5800万円の補助金を計上しております。これが制度化されましたら、「どの施設に、どのような設備を」という検討を踏まえたいうえで、整備を図っていく必要があると考えます。

議員

井田海岸の防潮堤の自動化。井田地区の防潮堤は完成が昭和36年度と、かなり年数が経っている。今回の大震災を受けて、今後、自動化、動力化できないのか。

産業建設課長

住民の皆さまへの津波被害の減災を目的として、井田区役員の皆さまや管理者の三重県とも協議を重ねて、平成23年6月1日から防潮扉を常時「全閉」にしております。井田地区海岸の防潮扉は自動化されておりませんので、紀宝町としましては、管理者の三重県に防潮扉の自動化・遠隔操作化の要望を実施しているところですが、ハード対策だけでは防護が困難なため、大きな揺れを感じたら津波情報が届くのを待つことなくすぐ

に、高い場所へ避難していただくことが重要でありますので、今後とも地域住民の皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

— 学生奨学金制度

議員

現在、経済的な理由により、就学が困難な方への対策で、各市町では例えば無利子で就学金として貸与、または支給という制度を創設されている。紀宝町では現在、この経済的に困難な方に対しての対策は、どのようにとられているのか。

教育課長

教育委員会では、東海労働金庫熊野支店と協調して、勤労者の負担軽減のため、教育資金の貸付制度を設けています。融資の対象は、町内に居住する勤労者、及びその親族の教育に必要な資金となっております。融資額は、10万円以上200万円以下。融資利率は、平成23年度現在で年2・35割。ただし、5年目以降は、東海労働金庫の定める利率であり、融資期間は、15年以内とし、最長4年以内の間で元

金据置期間を設けることができます。現在、借入れをされている方はいない状況です。

議員

紀宝町では、東海労働金の有利子の貸付ということですが、熊野市は無利子の貸付があります。1人月額5万円。人員は5名。償還が2年据置き10年以内償還。御浜町でも奨学金制度があります。憲法に教育の平等はうたわれております。南郡熊野の枠で教育に関しての奨学金は、足並みを揃えていただいて、熊野市、御浜町、紀宝町が同じような制度をとっていただきたい。

教育長

今、議員がおっしゃったように、利用者が極少ない、あるいは利用しにくい、そういう面もありましたので、そこを含めながら、この地域から他の学校へ行ったときに、なんとか保護者の負担を少しでも軽減できるものはないか、今後、紀宝町の独自の奨学金ができないものか検討させていただきます。と思っています。

— 子育て支援

議員

子育て支援の情報の提供で、携帯サイトで支援情報を配信できないか。

福祉課長

子育てや育児講座、保育所、幼稚園に関すること、障がい児や子どもの発達、一人親家庭、虐待・DV、その他学校等での行事やイベント情報など、子育て支援に関する情報については、幅広いものがあると考えています。前回の一つのパッケージといったもので、しっかりと調整を図りながら整理し、子育て支援情報サイトの構築に向けて検討してまいりたいとお答えしたと思います。後ろ向きではなく、前向きな視点で、今後考えてまいりたい。

— 子ども議会

議員

新宮市で、子ども議会、高校生を対象にした高校生議会が開催されました。紀宝町では今年度も開催はしないのか。

教育長

3月議会の際に、前回の反省を踏まえ、今度、子ども議会を開くときには、学校に

かたよらず、各学校7校から代表2名ずつ出していたかどうかのような子ども議会をさせていただきたいとお答えしたと思います。ただいま学校では検討していただいております。今月中には、はっきりとしてくると思っております。

※この他に行財政改革について質問がありました。

※榎本議員の一般質問については、本人のホームページに掲載しています。
(<http://www.enomotokeiji.com/jpan.htm>)



塩野 真議員

防災対策（地震、津波）

・教育関係の施設

・高齢者施設、社会福祉協議会施設

・観光施設（道の駅）

他

議員

4月に個人的に石巻市と東松島市に入った。石巻市では、通帳も身分証明もない状況で、郵便局の方が顔を確認し、預金、保険の払い出しを始めているところだった。機械じゃなく最後は人と人のつながりが大切だと感じた。東松島市では、自衛隊の方が遺体の搜索をされていた。住民の方が「本当は気が狂いそうですが、精一杯頑張りますので、応援してください」という言葉をかけられた。お見舞いに行ったのに、結局、励まされて帰ってきた。今回の震災で、被災された方々の思いや無念を決して無駄にすることなく、気を引き締めて防災対策に取り組んでいきたい。

— 教育関係施設

議員

町内の各小学校、中学校、幼稚園それぞれ安全性について。

教育課長

昭和56年に建築基準法が抜本的に改善され、これ以降の建物は新耐震基準になってお

ります。井田小学校及び神内小学校は、新耐震基準となっております。成川小学校は改築していく予定です。特別教室棟は旧耐震基準の建物ですが、耐震診断の結果から耐震性能が高い診断となっております。体育館は、新耐震基準です。相野谷小学校校舎は18年度に耐震補強工事を行いました。体育館は、新耐震基準です。鶴殿小学校は耐震性能が高い診断となっております。多目的教室棟及び体育館は、新耐震基準です。相野谷中学校は、新耐震基準です。矢渕中学校校舎は平成20年度に耐震補強工事を行いました。体育館は本年度耐震の補強工事に着手します。うどの幼稚園は3棟のうち教室棟1棟が新耐震基準です。

議員

津波、河川の氾濫が想定される箇所はあるか。

教育課長

東海・東南海・南海地震津波における津波高の予測地点、井田・上野口・鶴殿港・熊野川の最高津波高よりも高い位置に立地しています。しかし想定外を視野に入れた避難対応が必要であると考えま

議員

保育所の安全性は。

福祉課長

飯盛保育所・井田保育所は建て替えし、残り3カ所の成川保育所・鶴殿保育所は耐震診断の結果問題はなく、相野谷保育所は新耐震基準です。児童デイとして通園めだがが使用している旧鮎田保育所は、耐震診断の結果、問題はありません。現在想定されている津波浸水予測区域には指定はされておませんが、万が一に備え、保育所ごとに避難場所やルートを定め、速やかに避難できる体制を整備してまいりたいと考えております。

議員

学校における避難訓練、防災教育の実施状況は。

教育長

徹底的に避難訓練及び避難のマニュアルを、見直すよう指示いたしております。本年度は、学校がそのマニュアルを見直すなかで、昨年度までの小中学校における避難訓練、防災教育とかなり違ってきております。

議員

最悪の状況を想定して、取り組んでいただきたい。東海地震警戒宣言発令及び、東南海・南海地震が発生した場合の登下校中の訓練は、まだ想定されていないと思うがどうか。

教育長

自主防災会と合同で避難訓練をする計画をしている学校があります。各地域において学校の特徴を活かし取り組んでいる最中です。

議員

保育所の訓練の状況は。

福祉課長

各保育所において、火災、地震、水害を想定し、毎月1回、年12回、避難訓練実施計画に基づき訓練を行っております。園児に分かりやすいよう、ビデオや紙芝居を使った防災教育も取り入れております。年1回、消防署員に火災の際の避難誘導方法、火災発生時の通報訓練、消火器を使った消火訓練なども実施しております。

議員

避難所に指定されている学校は、地域の自主防災組織と連携が取れているか。避難所運営に関して誰が主になって

やっていくのか決めておいてよいのではないか。

教育長

町内7校の小中学校のうち6校が避難所に指定されております。子どもたちが学校にいたるときに、地域の方が避難されてくる想定をしていないと思いますので、学校との話し合いをしていかなければならないと思っております。

高齢者 社会福祉協議会施設

議員

高齢者・社会福祉協議会施設等の安全性は。

福祉課長

鶴殿・成川・高岡老人憩いの家は耐震診断の結果、倒壊する可能性が高いと判定されております。紀宝町福祉センター・神内福祉センター・宝寿園新館は新耐震基準、宝寿園旧館部分は耐震診断を実施していく予定と聞いております。

議員

各施設の避難訓練、防災教育の実施状況は。

福祉課長

社会福祉協議会では、消防

計画に基づき年2回、火災と地震の避難訓練を利用者も一緒に消防職員の指導のもと行っております。紀宝町福祉センターでは、学童保育、アプローチ、デイサービス利用者

と、また、神内事業所においても、デイサービス利用者などと一緒に訓練を実施しています。防災教育は、訓練に合わせ年2回講習会の開催や災害時における職員参集、配備体制など役割分担の徹底を行っているということですが。

観光施設

議員

道の駅において津波の想定は、安全性は。

企画調整課長

いずれの施設も耐震基準をクリアしております。津波想定ですが、熊野灘沿岸への津波想定高は4メートルいし5メートル想定されていますが、道の駅は海拔11・6メートルの地点に建っており、津波を想定した建物とはなっておりません。

議員

沿岸部で大地震が起きて避難しないのもどうかと思う。今後、津波を想定した訓練をする方針はないか。

企画調整課長

津波を想定した訓練はまったく行われておりませんので、指定管理者と協議をしまして、6月もしくは7月に避難訓練を実施すると聞いております。

宿泊施設 店舗 集客施設

議員

町内の店舗、宿泊施設にハザードマップの備え付けを周知し、指導を行っているか。

防災担当理事

避難訓練等を行っているかどうか、周知はしております。各施設に対して指導を行っているのが現状です。

避難等

議員

道路、水道、電気、ガス、電話などのライフライン事業者に、災害時の復旧体制を確認したことがあるか。

防災担当理事

復旧の協力に関する協定書等で、確認しております。

議員

東日本の震災で沿岸部から何かも離れた陸地へ津波が入り込んでいます。津波が川を遡り込んで海がまったく見えない地域でも多くの被害が出ている。町内で津波が川を遡上して被害が予想される箇所はないか。防災対策は。

防災担当理事

海の見えない地区の方々に
ついては、津波の現状が分か
りづらく、非常に不安である
と思います。発災時には、町
の防災行政無線の指示に従っ
て、一刻も早く行動を取って
いただきたい。また、大津波
警報等が発令された場合に
は、速やかに高台に避難する
行動を、常日頃から認識をし
ていただきたいと思いをす。

議員

自動車による移動は控えた
ほうがいいと言われている
が、ある資料の中に「避難は
原則として徒歩によるものと
しますが、避難目標地点が広
く駐車スペースが十分に確保
でき、自動車で避難したほう
が安全であるなど、特殊な事
情がある場合は、自動車の使
用を制限しないこととしま
す」とある。自主防災の会議
で、車で避難するという方が
おられて、よくよく事情を聞
くと一概に制限できないと思
った。各地域の実情にに応じ
て、避難の仕方は様々であ
り、原則は原則、またその例
外もあると思った。南海地震
による津波浸水の恐れがある
和歌山県串本町の大見崎地区

は、地区東側の山の上に指定
された避難場所までの道がJ
R線により分断され、迂回す
るルートでは大人の足でも10
分以上かかる。この状況を危
惧した住民たちは、大見崎避
難路整備実行委員会を結成
し、橋の避難路を自ら手作り
で整備し、その結果、もつと
も効果のあったところで、9
分もの避難時間を短縮できた
事例がある。当町でも、沿岸
部で国道42号線やJR線を横
断して、高台へ避難するルー
トを選択せざるを得ない防災
組織がある。JRや国道横断
し道をつけるのは大変なこと
だが、地域の実情を考えれば
そういった可能性も、私は探
っていくべきだと思う。行政
の責任だからとか、自主防災
の責任だからとか、そういう
責任の問題じゃなく、きれいな
事じゃなく、一人ひとりの責
任として、自分の命は自分で
守っていくという意識をもっ
ていきたい。



西村 喜久男 議員

- ・地震、津波対策について
- ・紀宝バイパスについて
- ・耕作放棄地（遊休農地）の解消対策について

— 地震、津波対策

議員

東北地方で発生した未曾有
の大地震、大津波を見て今
後、検討、見直しの必要性を
感じられていると思います。
ハザードマップの検討見直
し、避難路の整備など早急に
やらなければいけないこと、
長期的に考えていかなければ
ならないことがあると思いま
すが、どのようにお考えで
すか。

防災担当理事

ハザードマップの見直しも
早急に検討しなくてはいいけ
ま

せんが、国の防災会議等にお
いて見直しがされることが予
想されますので、その後にな
ろうかと思っております。避
難路の整備については、現在
4カ所が整備されており、本
年度には、8カ所の整備を予
定しており、今回の補正予算
に8カ所のうちの6カ所分を
計上させていただいております。
ハード面については、財
政的な面の検討、整備には相
当時間を要することから、ソ
フト面に力を注いでまいりた
いと考えております。

議員

イベント開催中の地震・津
波発生のことを考えた対応に
ついて伺います。今年も
みなとフェスティバルも予定
されているようですが、開催
場所について、グラウンドで
やるのか、実行委員会の中で
意見はなかったのでしょうか。

企画調整課長

先月みなとフェスティバル
実行委員会があり、今年も鶴
殿港で開催することで決め
ただいております。議論の
中で当然、地震・津波災害に
ついてのお話もございました
が、今まで同様に、運営委員、

全スタッフに津波避難経路図
をお配りするなか、避難誘導
をきちんとお願いしていく体
制をとった上で実施するとお
決めいただいております。

議員

十分に避難誘導の周知徹底
をされ、大きな災害にならな
いよう、よろしく願いま
す。ダムの耐震性・安全性に
ついて把握されております
か。

企画調整課長

新宮川水系では11のダムが
あり、大別しますとコンクリ
ート重力式ダム、アーチダ
ム、ロックフィルダムの3種
類があります。阪神大震災級の
地震がダム直下で発生して
も、ダムの耐震性は充分保た
れているということです。ま
た、中央防災会議で発表され
ております、東海地震をはじ
めとする3つの地震が同時に
発生した場合を想定して動的
解析を行っており、安全性は
確認されているということです。

— 紀宝バイパス

議員

計画から40年を経て紀宝バ

イパスが完成する見通しです。地元の皆さまはじめ、関係者皆さまのご努力とご尽力の賜物です。安心・安全で快適な町づくりにつながると思っています。安全かつスムーズにバイパスに進入できる対策は、どのようにお考えですか。

産業基盤整備担当理事

高岡、鮎田方面や成川側から新宮方面に向かう進入方法は現在と変わりませんが、熊野方面への進入方法は、新たにランプが設置されると伺っております。また、新宮方面への流入やその他詳細については、現在、国土交通省と三重県警察で調整中と聞いております。町としましても、地元住民の皆さまからご意見をいただく中で、ご指摘個所の安全対策等を進めていただくよう国に要望し、より安全で安心な道路に整備していただくよう努めてまいりたいと考えております。

産業基盤整備担当理事

渋滞対策として、熊野大橋付近から新宮港付近までの区間における信号系統による時間調整を実施いただいています。幹線道路が国道42号のみという状況もあり、新宮市から紀宝町までの区間では、慢性的な渋滞が発生している状況です。特に新宮大橋南詰交差点及び橋本交差点に交通が集中しており、道路形状の問題もあり、信号機の時間調整のみでは、対応は難しい状況と伺っております。今後も状況を確認しながら要望していきたいと考えております。

耕作放棄地の解消対策

議員

高齢化も進み、ますます耕作放棄地・遊休農地が増加しております。そういう農地が増えますと、獣の隠れ場所となり、獣害の増加、景観の悪化、土砂崩れ災害などの悪循環になっていきたいと思います。これらの、耕作放棄地や遊休農地の有効利用などの対策は、どのようにしておりますか。

産業建設課長

平成22年度の遊休農地調査では、農業振興地域内の農用地が28％、農用地外では40％の併せて68％になり、町内全体農地の12・8％が耕作放棄地といった状況です。地道な活動ですが、相野谷川流域の、ほ場整備済田において、耕作放棄地を少しでもなくそうと「水田営農推進協議会・水稻農家組合」の担い手による会議が毎年、刈取り終了後の10月に行われ、地図を広げて1枚1枚の水田に対し誰が耕作するかを膝詰め会議で行っております。その会議により、担い手農家の中で情報が共有され、耕作放棄地減につながっていると思います。また、大里津本地区耕作放棄畑地では、担い手対策・獣害対策の一環として、県普及所の指導による野菜栽培実証が行われ、特産品開発が急がれます。「売れる野菜づくり」に向け、葉ネギやとうもろこし、かぼちゃを作付けして実証を行っている現状です。国レベルでは、遊休農地対策として「ソーラーエネルギー発電に向け遊休農地を活用といった事業」も検討中と聞いており

ます。今後、詳細がわかり次第、町として取り組めるものには積極的に取り組んでいきたいと考えております。

議員

ヤギを放牧し耕作放棄地の獣害対策も兼ね、雑草を食べさせる取り組みについてどのようにお考えですか。

産業建設課長

平成19年に井内地区で、ヒツジの放牧による実証を行いました。近隣では熊野市紀和町においても、平成17年にヤギを利用しての獣害対策・除草対策・農地の保全に取り組んだ経緯があります。いずれも除草という面では一定の効果は得られました。生き物相手ということもあり、時期的なえさの確保問題や逃亡等の問題、結果として短期間で命を落とすといった形で、両実験とも定着実施には至りませんでした。命あるものをどの機関が責任を持って、24時間365日体制で維持管理を行うかが課題であると考えます。



市川 潔 議員

・災害につよい町づくりについて
・ヒヤリハットの安全対策について

災害につよい町づくり

議員

東日本大震災を教訓として、当局は災害につよい町づくりをどのように考えているのか。

防災担当理事

今回の東日本大震災の教訓として言えることは、堤防の整備などハード面の整備では、減災にはつながっても災害を完全に防ぐことはできないということが示されたように思われます。災害につよい町づくりとは、各々の施設や

新宮市側の渋滞対策について、渋滞の多い時間帯の信号機の設定など、具体的な対策要望についてどのようにお考えですか。

議員

新宮市側の渋滞対策について、渋滞の多い時間帯の信号機の設定など、具体的な対策要望についてどのようにお考えですか。

住民の財産を守ること大切ですが、一番大切なのは住民の命を守ることであると考えます。避難路の整備や避難所の耐震化などのハード面による減災対策を進める一方で、防災教育の開催や防災訓練を

地区の自主防災会などと一緒になって根気強く繰り返し行い、発災時には住民各々がスムーズに避難行動がとれる体制づくりをするなどのソフト面での対策が、家族・地域・企業で講じられるよう取り組んでいくことが必要であると考えております。

議員

行政に過度に依存せず自らの命は自分で守る。できるだけ逃げる。それが今回の津波の大きな教訓だと思う。教訓を受け継ぎ、教育の場の防災教育は本当に大事なことから思います。釜石市の片田教授の実践的な防災教育について教育長のお考えは。

教育長

一つは、自分の命は自分で守るということ、各学校でも実践・経験あるいは訓練をしていかなければならないと思います。二つ目は、大人・学校職員が日頃の防災に対す

る考え方・訓練で、危機回避能力を身につける。この二つが非常に大事であると認識しております。片田先生の教えは、どの学校にとつても今後、重要なポイントになってくると思います。

議員

本当に紀宝町をこういう災害から守るんだという大変強い町長の思いを聞かせていただきたい。

町長

東日本大震災を受けて、今後のあり方、対応について、しっかりと勉強していくことが大事でありますし、私も町民皆さま方全員が、いかなる災害があろうとも生命・財産を守っていく手段を講じていくのは課せられた責務であると思っております。今できることは何だろうかということをしつかり捉まえて、町民皆さま方に安心していただける取り組みを進めてまいりたいと思っております。

議員

想定外の津波が来た場合の心配をして、役場本庁舎屋上から通じる防災タワー建設の要望を高齢者から聞くが、今後の当局の考え方は。

防災担当理事

現在の津波想定水位は鶴殿港で5・99^{メートル}。仮に想定水位を1・5倍で想定しても約9^{メートル}となり、本庁舎の2階が浸水することが想定されますが、3階及び屋上は安全であると認識しています。今後、国の防災会議や三重県等において想定水位等の見直しが行なわれ、現庁舎では不十分と判断した場合には、防災タワーも視野に入れて現庁舎の改修を検討させていただきたい。

議員

町長のお考えをお聞きしたいと思えます。

町長

議員ご指摘のように想定外ということについては、非常に判断が難しいところで、今後、国の防災会議等の見直しの行く末を見ながら、新たな取り組みをしていく必要があるだろうと思っております。現庁舎の3階で13^{メートル}、屋上で17^{メートル}の高さがあることを町民の皆さま方に熟知しておいていただいて、現段階において、それぞれの判断のなかで自主的に対応していただくことが必要ではないかと思っております。今後、国の防災会

議等の出される状況等を見るなかで、庁舎のあり方についても対応し、町民の皆さま方の安全を確保するために、取り組みを進めていきたいと思っております。

議員

紀宝町の海岸堤防強化について。高さ及び耐震強度についてお願いします。

産業建設課長

現況の堤防の天端高は、井田北地先8・1^{メートル}から10・4^{メートル}。井田南地先7・8^{メートル}から8・5^{メートル}。鶴殿港内の堤防は、梶鼻付近から製材所付近までが7・82^{メートル}。製材所付近から神内川防潮水門付近、紀南漁協の事務所付近、専用岸壁までが5・53^{メートル}。太平洋側の南防波堤は7・55^{メートル}。熊野川の左岸の高潮堤については、現在5・35^{メートル}から5・5^{メートル}の高さですが、現在整備が進められており、整備が完了しますと7・55^{メートル}まで堤防が上がってくるということです。強度

については、耐震点検が実施されており、耐震点検結果では、井田地区海岸堤防の危険度が低く、地盤の液化化も可能性が低いと判定されております。その一方で、鶴殿港堤

防の一部で危険度が高く、地盤の液化化の可能性が高い結果と判定されております。東日本大震災後の津波高想定の見直しにより、海岸施設の具体的な基準が示されれば、井田地区海岸堤体及び鶴殿地区海岸堤体のあり方も現在と変わってくるのではないかと考えております。今後は管理者の三重県に情報を提供いただきながら、海岸施設の適切な整備を引き続き要望してまいりたいと思っております。

議員

堤防は少しでもより高く、より強度なものにしたいだけけるようにお願いしたい。

町長

一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

ヒヤリハットの 安全対策

議員

紀宝町において、住民が危ないと感じたところを先取りして、改修していただいていると思うが現状は。

総務担当理事

様々な方々からお寄せいただく情報については、「今す

ぐ改善できるところは、すぐに」、「改善のために予算計上が必要なのは、見積もりを立て」、「現在はまだ早急に改善の必要はないが、将来的には計画を立てて改善する」といった仕分けを行い、安心して安全な町づくりを進めさせていただいております。

議員

建設課のほうでのパトロールは、どのようなかたちでされていますか。

産業建設課長

道路等のパトロールについては、職員が現場に出た際に実施しており、特に冬季の凍結の対応については、気象や現場の状況に応じて職員が凍結防止剤を事前に散布をし対応をさせていただいています。地域住民からの情報提供やパトロールなどにより、危険箇所の現状を早く把握し、できる限り早急に安全対策の対応をしております。



高垣 操 男 議員

・防災対策について

— 防 災 対 策

議員

避難所となる公共施設の耐震化の現状についてですが。これは平成19年度の防災マップで、地震・津波・豪雨などの町の避難所として、44カ所指定されております。地震に対して7カ所マークが入っていない。これはどういう状況ですか。

防災担当理事

地震時の避難所として指定されていない施設については、海拔の問題、また耐震性の問題により、外させていた

だいております。

議員

一つを例にとりますと、下地の成川生活改善センターは地震に厳しい。その場所へ行きますと、裏山が危険です。岩が今にも落ちかかっている状態です。今後の考え方をお願いします。

防災担当理事

成川下地区の生活改善センターについては、現在、耐震補強は行っておりません。今後、担当課のほうで耐震補強工事を行っていただく予定となっております。下地地区についてはは施設面での避難所は耐震補強もなされていないため、センターへの避難は難しく思っておりますが、地元自主防災の方々の現在の訓練状況等をお聞きしております。と、寺山への避難、そして紀宝バイパスに近いほうの下地町内会の方々については、町道門脇線のほうに避難をする想定で訓練をさせていただいてると伺っております。

議員

防災教育について。釜石市での片田教授を中心とした防災教育について、町としてどのような考えですか。

教育長

いろいろありがとうございます。議員のおっしゃっていただきました学校での防災教育にかかわっておりますが、実はもうすでに始まっております。

議員

と言いますのは、私どもの小中学校は三重県教育委員会の管轄になりますので、もうすでに来ておまして、指導する先生のレベルを、対応教育を高めなければならぬということ、三重県下すべての学校の1名以上の先生に対する研修会は行われております。ごく近いうちに、熊野ブロックとして熊野庁舎で行うと思います。そういうなかでまず、先生方の意識をしっかりと高め、子どもにも教えるべく、子どもと学んでいくことが大事だと思います。議員が言われましたように、今後、専門家あるいは外部の方も呼びびして、そういうことも必要になってくるかなと思っております。いろいろな角度から、子どもたちに違った面で防災教育を。防災教育は避難だけすればいいことではなくて、やはり人生、自分の生き方につながっていくような防災教育、そういう視点で

やっていかなければならないと思っておりますので、ご理解を賜りたいと思っております。

防災担当理事

システムについては、3月11日に発生しました東日本大震災以後、全国的にも自然災害に対する対策や、震災後の対応に対する関心が高まってきており、当町としましては、情報処理担当のほうの話も聞くなかで、震災が発生した後の状況等も新しいハザードマップ等によって被災状況等も想定しながら、機器の台

数や運用形態の検討、また、現在使用している他のシステムサーバーへの導入が可能かどうか等も詳細について調査するなかで、導入の検討をさせていただきたいと思っております。

議員

AED（自動体外式除細動器）の設置場所での訓練等の状況について。

防災担当理事

紀宝町には25のAEDを設置しております。管理については、設置場所において管理者を選任していただいて、今、議員ご指摘のように、AEDの故障またはバッテリー等、付属品の点検を行っていただいております。AEDの活用については、各地区の自主防災訓練の中でその機器を活用して、熊野消防署紀宝分署のご指導のもと訓練を行っていただいて、住民に使用方法について周知を図っております。町職員については、年1回普通救命講習を開催しており、その中でAEDの取り扱いを入れていきます。本年度も近々開催する予定で、その機会に町職員に使用方法について周知しております。



原 章三 議員

・防災問題について
・原発問題について
・高岡地域の水田水路、取水口の補修について
他

— 防 災 問 題 —

議員

地域の人々と震災問題について会話をし、多く聞こえてくるのは、秋には開所予定の井田の保育所とすでに完成している亀楽苑の問題です。「なぜ一番あのような危ない箇所に、保育園児、お年寄り、ケアを必要とする人たちを入居させるような施設を造ったのか。本当に安全性は大丈夫なのか」など多くの声が聞かれます。当初の避難場所がテラスから亀楽苑に移行されるということですが、避難時間

がどのくらいかかると想定しているのですか。

福祉課長

今回の震災を受けてより高いところへ、さらに高いところへ、これを教訓に避難経路も変えました。亀楽苑の3階への避難訓練については、今後行う予定で、実際の時間は計っておりませんが、地下の集会所までは一度やっております。7分間という結果です。

議員

東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合、津波は8分以内にはもうすでに到達すると言われております。震災が発生してから収まるまで約1分。避難準備をするのに約1分。はたして4分ないし5分以内でどれだけ避難ができるのかどうか。本当に3分、4分以内で確実に一人の犠牲者も出さずに屋上まで避難させることができるのですか。

福祉課長

宝寿園の3階までの避難については、今後しっかりと取り組んでいきたいと思えます。避難には保育所の職員一人丸となって、臨時職員含め

て、保育園児を安全に避難させるために、避難訓練を行いながら、今後いろいろな状況を踏まえ、改善できるところは改善していきたいと思っております。

議員

小さい子どもたちを避難させるときには、大人が避難するようにはいかないこともありますので、是非ともそういった点をきちんとやっていただいて、将来のある子どもたちを一人も犠牲を出さないといい避難計画を作っていたいただきたい。紀宝町内の水道管の老朽化の問題ですが、ほとんど耐震化に耐えうるような状態ではなく、ライフラインである水の確保、その運送方法等についてはどのように計画、立案されているのかお伺いします。

環境衛生課長

耐震化を町全部に進めるとすれば、100キロメートル以上あるわけですが、それはとても無理ではないかとの話も出ております。真水を水に変える機械の設置、また各地区において地下式タンクを設置して、避難所ごとのポイントで給水する方法も有効ではないかと

検討をしている段階です。

議員

地下式タンクについては、耐震構造、水質の問題、長期間保存などいろいろあると思えますが、それらについてはどのようにお考えですか。

環境衛生課長

例えば、地下式の40センチメートルタンクを設置する場合、大体直径が2・6メートル、厚さが1・6センチメートル、長さが8メートルくらいになり、ポイントごとに設置します。水質の問題については、太い管が流れて絶えず流水するかたちで普段はそのまま使っています。非常時になるとそこが遮断されて非常用の水が給水できるかたちになります。

議員

従来の住宅耐震補強工事については、申し込んでも半年や1年近くも時間がかかる。それに伴う工事をやってもらおうと思ったら見取り図等で、約10万円も金がかかるということで。本当は補助金欲しいけれども、断念をされたという話を聞きました。経済不況のなか、地域の産業がますます冷え込んでいるわけです。そういったなかでこの住宅のリフォーム制度につい

て、町としても補助金をさらに出して、一般の住宅リフォーム制度を活用できないのか。

町長

住宅リフォームの制度については、周知がまだ行き渡っていないのではないかという思いもありますので、それらについて広報活動をして、制度が活用していただける取り組みを進めていきたいと思っています。特に今回の東日本大震災の状況を受けて、町民皆さま方の意識も大変強くなっていると考えております。そういったなかで、今、ご指摘いただきました三重県の耐震の木造改修もあるというお話ですので、そういった分を合わせて、これから安全安心に住んでいただけるような方法についてもPRをしてまいりたいと思っております。

――原発問題

議員

今回の震災については、もう一つ絶対に忘れてはならないのが原発の問題です。三重県においては、過去にも中部電力が現在の南伊勢町、ある

いは紀伊長島・尾鷲・熊野で立地計画をどんどん進めてきた経緯もあります。地域住民の激しい反対闘争が行われた結果、原発が三重県には設置されていないわけですが、そういったなかで、今日、中部電力は2030年までに、まだ新たな原発をということで新規の立地計画を諦めておりません。今は一時停止となっている世界一危険な浜岡原発の永久停止と、三重県内に原発立地を許さないことを、是非、知事に対して要望書を提出していただきたい。

町長

原発という問題は日本国民全体が今大きく考える時期にきているとの思いをしております。そういった意味では、今後の電力のあり方等踏まえ、どうなっていくのか注視をしていきたいと思っております。当地域には原発は必要ないと思っております。このことはしっかりと今後も取り組んでまいりたいと思っております。

――高岡地域の水田

水路、取水口

議員

今年、稲作をやっておられる方が、田植え時期に、降水量が極めて少なく、田植えの準備をするのに相当苦勞してきたわけです。そういったなかで、高岡地域の水路、取水口等が、老朽化しているのが実態です。取水口、水路の改修等を是非、行っていたいただきたい。

産業建設課長

国・県などの事業も考えながら、施設の老朽しているところや、機能していないところについては、受益農業者の皆さまの意見などをお聞きするなか、施工方法などについても相談をさせていただき、農業用施設の改修を進めてまいりたいと考えております。また現場の状況等を見ながら、必要に応じて県などに要望をさせていただきたいと考えております。

――小畑地域の飲料

水と巡回バス

議員

大里地区の小畑地域について、高齢化と過疎化が紀宝町内でも一番進んでいるところ

です。そのため、例えば飲料水等は山から引いた山水を利用しています。どのようにお考えですか。

環境衛生課長

飲料水の問題は、安全な生活をする上で重要なライフラインですので、このような問題は解消しなければならぬ課題と受け止めております。小畑地域の実情を把握した上で、その地域にふさわしい対策を、小畑地域の皆さまの意見を拝聴しながら、考えていきたいと思っております。

議員

小畑地域は公共交通がまったくない地域です。そのため、大半の人はバイクや車で行かれるわけですが、免許のない方は、町営バスを利用せざるを得ない。田代公園のバス停まで歩いて30分くらいかかる。例えば相野谷診療所へ行くにしても巡回タクシー、小型バス等があれば、もっともっと利便性が図れると思うわけですが、その点についていかがお考えでしょうか。

企画調整課長

巡回タクシーについては、町民バスの全面廃止や縮小等が前提となることから、当町

の公共交通体系の再編の検討を行う必要があります。昨年度実施した町民バスに関するアンケート調査を基礎的資料として、住民の方の意見を集積し、交通空白地の解消の検討も含め、今後の町民バス運営体系の見直しへとつなげてまいりたいと考えております。現状では福祉有償運送等をご利用いただきたいと考えております。

――うどの幼稚園の

保育時間延長

議員

今日の経済状況で、夫婦共働きが当たり前になっているなか、うどの幼稚園において、学童保育を行ってほしいという声があります。幼稚園において学童保育をなんとしたとしても実現する方向でやっていたきたいと思うわけですが、その点についていかがでしょうか。

教育長

今、紀州ブロックの中では、延長するということはないと私認識しております。今後、こういう話があったということ、幼稚園に話

しをしていきたいと思ひますし、幼稚園のほうへ、保護者のほうからそういう意見があるのかどうかということを確認したいと思ひています。

永田公民館前 信号機の設置

議員

県道相野口永田線、永田公民館前で津本のほうから田代へ抜ける、県道と交わるところが非常に見にくい状況になっております。信号機の設置をしてほしいという要望が出ております。その後の経緯について伺ひします。

産業建設課長

永田公民館前の信号機設置については、今回、地元役員会で設置の方向で、意見が一致をしているとのことですので、大里区から道路管理者である紀宝町及び三重県に対して要望書を提出していただきたいと考えております。その要望をもって、紀宝町から公安委員会に要望を行うことになるかと考えております。しかしながら、警察といたしましては、まず交通事故防止対策として、信号機の設置以外に

できる対策を道路管理者、関係機関と協議し、現場の状況に応じた有効な対策を検討していくと共に、信号機の設置については、その結果を踏まえ、設置の必要性や県下での優先度を考慮して検討してまいりますと伺っております。



平野 美津子 議員

・保育所について

保育所

議員

以前から引き続いて、私は公立の保育所で0歳児の保育を実現してほしいという要望をずっと出してまいりました。3月議会でも6月議会ま

では、目処をつけてほしいとお願ひしております。その後の経過はいかがでしょうか。

福祉課長

0歳児保育については、平野議員から度々ご質問をいただいております。御質問の趣旨は十分理解をさせていただいております。これまでも申し上げましたが、町としての0歳児保育の対応については、子どもたちが健やかに育つ大切な時期を、ご家庭と一緒に過ごしていただくことが大切であると考えております。また、事情等があり0歳児保育希望者については、事情を勘案させていただき、広域入所に対応させていただいております。

議員

その根拠はなんでしょうか。

福祉課長

町としては1歳までの子どもはできるだけ家庭で育てることが大切であろうと思っておりますが、福祉課としておられますが、福祉課としては、育てていただくための支援の対策を講じることが必要であると思っております。その一つとして、子育て支援セ

ンターを開設させていただいております。また、23年度にはファミリー・サポート・センターを設立したいと考えております。

議員

私の質問にきちんと答えていただいていないと思ひます。根拠についてのは、やはり法律なり、国の保育指針なり、そういったものだと思います。日本国憲法第25条が国民の生活を保障していると。それに基づいてやはり地方自治体もやっつけていかないとけないと思ひます。それで、紀宝町だけがそのような施策をとること自体おかしいと思っております。公費を使って素晴らしい保育所2カ所も建ちました。1歳までの保護者は自分の手で育てたいと思ひていると思ひます。だけど0歳児を保育所に預けなければならぬという方には、それなりの事情があると思ひます。預けなければならぬ方を、新宮の私立の保育所に措置をしているのはなぜですか。

福祉課長

法的に大きいところでは児童福祉法第39条（保育所は、

日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳幼児又は幼児を保育することを目的とする施設とする）になろうかと思ひます。当然ながら保育のあり方については、広域保育を含めて柔軟に対応していかなくてはならない自治体があります。広域保育も自治体によって自治体もありません。0歳児保育については、新宮市に限らず御浜町、熊野市と連携を取りながら、受け皿として対応させていただいております。現状ではこういう状況であります。前にもお答えしましたが、あくまでもこれを絶対にやらないという返事はさせていただきます。今後についてはしっかりと検討させていただきますという答えですので、どうかご理解ください。

議員

その受け皿についていいものは、何なんですか。0歳児を預からない理由。

福祉課長

先ほども申し上げましたが、町としては、町の考え方が、町とあります。1歳ま

ではご家庭で、こちらで子育て支援をやっていたり、子育てには、それなりの子育て支援対策が必要ですので、子育て支援センターやファミリー・サポート・センターを設立してやっているということですね。

議員

私が聞いているのは、新宮へは措置するのに、なぜ自分ところのきちんとした建物も新しく建て整備された保育所で措置できないのか、ということをお聞きしているんです。

福祉課長

先ほども言いましたが、現状としては広域ということ、井田保育所も秋には完成をする予定です。町の次世代育成支援行動計画においても、まず0歳児保育については、きつちり施設整備をした上でということになっております。整備をされた後、当然0歳児保育を行うにあたっては人的な配置というの必要になってきますので、時期については、検討させていただきます。とお答えをさせていただきます。

議員

今のお答えから推し量りますと、人件費がかかるということでしょうか。

福祉課長

人件費がかかるという話ではなくて、0歳児を1人みるのに、1人の保育士がいりませんが、3人までみるのが可能ですが、そういった人的配置が必要だということをお聞きしました。

議員

例えば、御浜町を調べさせていただきますと、1カ所の保育所で0歳児を預かっているということ。広域の話ですが、広域の保育ができるようになったのは、どういう理由からですか。

福祉課長

これまでもまったく0歳児のニーズが、なかったわけではありません。今年度においても、2人が実際、新宮の保育所に広域というかたちで対応をさせていただいております。私どもとしては、町で施設整備して今後については検討させていただきますが、それまでは受け皿的に非常に難しい部分がありますので、さちつとやっぱり受け皿として対応していくために、広域

を選択して進めてきたということですね。

議員

広域で保育する目的をお聞きしているんです。私の知識では、その広域っていうのは例えば、この紀宝町の方が新宮で働いていると。新宮で預かってもらったほうが働きやすいと、そういった場合にはその広域を利用して措置してもらおうということだったと思

うんです。今回のこの紀宝町がやっている0歳児保育については、紀宝町では預からないから新宮で預かってもらって広域を利用していただい

しゃるんです。たぶん、私はそのお二人、私はいつも0歳児のことについているので、連絡が入りまして、やはり紀宝町の公立の保育所です。お聞きしたいと言っていました。

この地域で安心して子ども産んで、生きていくためには、やはり公立の保育所があるんですから。0歳児だけ別格に扱われるのではなくて、やはりきちんと保育指針に基づいた考え方で保育を考えていた

町長

0歳児保育については、こ

れまでも議員から質問いただいておりますが、私としても先ほど課長から答弁させていただいたとおり、考え方は変わっておりませんので、今後、十分検討しながら、これからの子育てについて、たくさんすることがあることを踏まえながら、取り組みを進めたいと思っております。

議員

1歳までは保護者が家庭でみるという考えに変わりはないと考えてよろしいんですか。

町長

これまで答弁させていただいたとおりです。

議員

町長に確認しているんです。それできちつと言葉で回答してほしいんですがいかがでしょうか。

福祉課長

議員の質問に的確にお答えすることができなかったことをお詫びいたします。0歳児保育等を受け入れしていない根拠は、児童福祉法によること、ここでは0歳から就学前の保育に欠ける子どもを受け入れるという範囲が示されております。この0歳から

就学前の年次の子どもをすべて受け入れるかどうかは、市の裁量に委ねられているところ。いろいろな事情を勘案して市町が決めていくということですので、よろしくお願いたします。

※この他に防災計画の見直し、自主防災、重症心身障がい者の療養介護施設の設定、紀宝町社会教育振興ビジョンについて質問がありました。



次回定例会の予定

9月13日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5カ所のロビー等において、町議会本会議の様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶴殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、

◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案

● 専決処分の承認

・紀宝町国民健康保険条例の一部改正

● 紀宝町条例の一部改正

・東日本大震災による被害が未曾有のものであることに鑑み、現行税制をそのまま適用することが、被災納税者の実態等に照らして適当でないと考えられるもの等について、緊急の対策として、「東日本大震災の被災者等の負担軽減を図る等のための、地方税法の一部改正」に伴い、条例の整備を行うものです。

● 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更

・県営で行っている、浅里地区 営農飲雑用水整備事業について、総合整備計画における計画期間を平成23年度から平成25年度までの3年間から、平成23年度から平成24年度までの2年間に変更するものです。

● 平成23年度一般会計補正予算（第1号）

● 平成23年度水道事業特別会計補正予算（第1号）

● 人権擁護委員の推薦につき意見を求めること

・人権擁護委員に奥地義郎さん（成川）を推薦することに同意しました。

意見書

● 「軽油引取税にかかる課税免除の恒久化」を求める意見書

編集後記

東日本大震災の発生から、早5カ月が過ぎましたが、思っていたより復旧、復興のスピードが感じられず心痛に耐えません。また、東京電力の原発事故も重なり、放射能飛散の影響で避難されている皆さま方は、どのような心理状態で生活されておられるのでしょうか。子どもたちへの被害の心配、農産物・家畜などへの風評被害の心配、一刻も早く原発が終息し、次への展望や目処が立つことを願っています。

私たちの地域にも今後30年以内に大地震が起りえる報道がありますが、紀宝町では今回の大地震以前から、行政の指導の下、消防団協力も得て、地域密着の自主防災組織の育成に取り組んでいます。「自助、共助」の合言葉を提示し自己責任を持って、日頃から自然災害の発生に備え、避難場所、徒歩時間等の把握が必要だと思います。最後に震災支援に行かれた各団体、行政職員の皆さま方、本当にご苦労様でした。

（文責 的場）

「議会だより」（第20号）

編集委員

大石 洋

榎本 健治

的場 孝一